

第 57 回 生殖発生毒性評価勉強会開催案内

2026 年 10 月 7 日

生殖発生毒性評価勉強会運営委員会

時下ますますご活躍のこととお慶び申し上げます。

第57回生殖発生毒性評価勉強会開催の案内を申し上げます。

今回はヒトで催奇形性を示すことが知られている物質について、その発生異常を引き起こすメカニズムをわかりやすく解説していただこうと思っています。製薬・化学・農薬・食品会社等の若手研究者や妊婦・授乳婦関係の薬剤師などで初歩から勉強したいと思われる方はぜひご参加下さい。なお、参加者には日本先天異常学会の生殖発生毒性専門家受験資格のための評点 2 点が付与されます。

*本案内につきまして、貴施設での関係者の皆様に、ご連絡のほどよろしくお願い申し上げます。

[illegible]

日 時： 2026年11月28日（土） 13:00～17:00

場 所： 中外ライフサイエンスパーク横浜（神奈川県横浜市戸塚区戸塚町 216）

<https://www.chugai-pharm.co.jp/profile/about/group/office.html>

交通：JR 東海道線/横須賀線/横浜市営地下鉄ブルーライン 戸塚駅(6 番出口)徒歩 12 分

会 費： 勉強会 無料、懇親会 4,000 円

申込み： 11/17（火）までに「勉強会のみ参加」または「勉強会および懇親会に参加」を明記の上、事務局に申し込みをお願いします（参加者名簿を事前に提出する必要があるため、当日参加はできません）。

内 容：話題「ヒト催奇形性物質の発生異常メカニズム」

- ・ Acetylsalicylic acid, Ibuprofen (内田景子、第一三共)
- ・ Thalidomide (金崎聡一郎、小野薬品工業)
- ・ Acitretin, all-Trans Retinoic Acid, Isotretinoin (高瀬真衣、中外製薬)
- ・ Busulfan, Cyclophosphamide (小林健一、労働安全衛生総合研究所)
- ・ Phenytoin, Carbamazepine (谷岡広大、塩野義製薬)

報告：迅速透明化標本作製法 検討経過（八田稔久、金沢医科大学）

(バイオリサーチ、日産化学、ボゾリサーチ、トランスジェニック)

紹介：イベリアトゲイモリ胚を用いた発生毒性評価（大林徹也、鳥取大学）

講演：先天異常モニタリング（浜之上はるか、横浜市立大学附属病院）

[illegible]

懇親会：17:30～19:30 居酒屋 土間土間 戸塚店（横浜市戸塚区吉田町118-1 OCビル B1F）

<https://tabelog.com/kanagawa/A1401/A140305/14012346/>

生殖発生毒性評価勉強会事務局

Meiji Seika ファルマ(株) 非臨床開発部 下村和裕

E-mail: kazuhiro.shimomura@meiji.com